

熊本大学地域貢献特別事業（文部科学省）で貢献しています

「環阿蘇/有明・八代海の環境保全・修復とブルー・グリーンツーリズム活性化のための知的・人的ネットワーク構築」のテーマで沿岸域センターを中心に実施しています。

熊本大学は、地域課題の解決や人材育成、産業振興、環境保全といった地域に役立つ研究も数多く行っています。熊本県とパートナーシップを組みながら、それらを地域の活性化に活かすよう取り組んでいます。この一環として、滝川が企画した表記テーマが採択され、14年度は以下の4つの事業が実施され、15、16年度も継続されます。

1. “野鳥の池”の調査

熊本県土木事務所、熊本県港湾課およびNPO法人みらい有明・不知火との共同調査で、熊本港親水緑地公園の一角にある「野鳥の池」に通水パイプを通して海水を導入し、人工的な干潟を作り、水質、底質、底生生物等を継続調査して、ここに創生される“新たな干潟と生命活動”を調査研究しています。国内外を通じて、極めて数少ない研究で、その成果が大いに期待されています。

2. 二枚貝による水質改善策の研究

沿岸域の環境悪化や漁業の衰退の原因として、富栄養化が大きな問題となっています。逸見による本研究は、二枚貝によって海水中の富栄養化物質の除去を行うものです。この方法は、人為機械的な除去に比べてコストが低いだけでなく、富栄養化物質を水産有用生物に質的に転換し漁業生産活動で水揚げ出荷することで、利益を伴った環境浄化が可能です。最近、有明海の干潟においてアサリ放流による富栄養化物質の除去が試みられていますが、アサリは砂泥中に潜って生活するため、赤潮や酸欠に弱く成功していません。そのため、私達はマガキを材料に研究を続けています。



生育実験中のマガキ。写真のように水没する時間を変えて、成長(富栄養化物質除去量)を比較した。

3. 公開講座「有明海・八代海を科学する」および体験実習

研究成果の地域への還元および干潟浅海域に関する環境教育の充実を目的として、一般市民を対象とした公開講座「有明海・八代海を科学する」および熊本県水産研究センターにて体験実習が、熊本県(自治体側)との共催で実施されました。概要は、熊本大学ホームページ (www.link.kumamoto-u.ac.jp/d2/d22/framepage-d22.html) に掲載されています。次年度開催の要望が強かったことから、本年度も実施を予定しています。

○講義

日時：平成15年2月6日～3月13日、毎週木曜日、18:30～20:00、計6回。

講師：沿岸域センターの教官と熊本県水産研究センターの木村武志部長(養殖研究部)ならびに平山 泉部長(資源研究部)

有明海の環境問題に関する最新の研究成果を分かりやすく解説し、受講者とともに議論しました。受講者は13才から71才までと幅広く、45名用の会場は毎回ほぼ満席となり、質問や議論が活発に交わされました。



パレアでの講義

○体験実習

3月15日(土)に、水産研究センターの研究員・職員を中心とした指導の下で、船上実習やプランクトン観察などの室内実習がおこなわれました。参加者は、講座受講者内の18名であり、熱心に実習に取り組み、環境問題への認識を深めていました。



水中調査ロボットによる漁礁生物の観察